



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No23
文責 芹川博文
10月24日(金)

「おでんに入っている芋（いも）は？」

～ 違いを受け入れ、なかまと高め合う隈府小を目指して ～

始業式の日のは、校長不在のため松尾教頭先生にお願いしました。後で聞くと、とても興味深いお話。ご家庭で話題になったかもしれません。教頭先生から概要を紹介していただきます。

私の家ではシチューはご飯にかかっていた。これが「当たり前ではない」と気づいたのは、高校生の頃の友達との会話からでした。「シチューとご飯は別々の皿に入っているよ」「シチューの時はご飯ではなくパンを食べる」「家ではシチューは食べないなあ」…。

自分の生まれ育った環境によって経験が変わります。その経験の違いから、同じものを見ても「見方」「感じ方」「考え方」が違います。今、隣にいる人も、これから会う人たちも、自分とは違う生き方をしてきた人です。違って当たり前なのです。大切なのは、その違いを受け入れること。違いを受け入れられる心の余裕を持つことです。

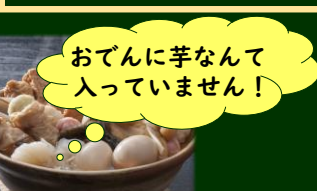
児童の皆さんに「おでんに入っている芋」を尋ねました。これまでの経験から「サトイモ」「ジャガイモ」と答える人が多かったのですが…実は、全国的には「おでんに芋は入っていない」ようです。もし、誰かと一緒におでんを作るとき、自分の経験から「芋なんて入っていない！」と主張し、芋を入れたい周りの意見を受け入れない人がいるならば、みんなが納得するおでんはできるでしょうか。

友達と話をするとき、自分の考えばかりを攻撃的に押し付けても、コミュニケーションは図れません。逆に、他人の意見を優先しすぎて自分の気持ちを出さなくても同じことです。良好な人間関係を築くためには、相手の話をしっかりと聞き、その思いを受け入れ寄り添ったうえで、自分の思いや考えを伝えることが大切です。それをアサーション（非攻撃型自己主張）といいます。

自ら考え、その思いを伝え、違いを受け入れ、なかまと高め合う、そんな隈府小を目指してほしいと思います。



おでんに入っている芋（いも）は？



みんなでやると楽しい なかまがいると頑張れる

～ 児童会企画「あいさつウィーク」と、栽培委員の大根の種まきから ～

朝から大賑わいでした。児童会が企画した「あいさつウィーク」の初日、「おはようございます！」の声が響き渡り、今年5月の運動会の大合唱を思い出しました。

その横では、栽培委員の児童が、畑の畝を上手に作り、大根の種を丁寧にまいていました。「大根ができたら、校長先生にもあげますね。」と、笑顔で言ってくれました。

朝の貴重な時間。更にこの日は冷たい風が吹きつける朝でした。その中でこの熱気と元気。つくづく「みんなでやることの楽しさ」、「なかまがいることの頼もしさ」を感じました。

この「みんなで何かをする体験」が、これからの時代を生きる「カギ」になるかもしれません。「どうせ・・・」と、つまらなく考えるより、「どうせなら」と、プラスに考える力、みんなでやることを「面倒くさい」でなく、「面白そう」と思える力が、その人の「元気力」となっていくことでしょう。今回の児童会の企画で、隈府小全体の「元気力」も更にアップしそうです。

